

## 指定理由書

- 1 種 別 天然記念物
- 2 名 称 旧中央線のイロハモミジ
- 3 員 数 4本
- 4 所在地 春日井市玉野町字東谷 1667 番 1
- 5 所有者 特定非営利活動法人 愛岐トンネル群保存再生委員会  
春日井市玉野町 1660 番地 1
- 6 管理者 同上
- 7 種の特徴 イロハモミジ (*Acer palmatum* Thunb.) は、ムクロジ科 (Sapindaceae) カエデ属 (*Acer*) の落葉高木で、本州・四国・九州及び朝鮮半島・中国・台湾に分布し、山地などにみられる。別名イロハカエデ、タカオモミジなどともよび、カエデ属では、国内で最も一般的な代表種であり、本種より作られた栽培品種も多くみられる。葉は対生し、葉身は径 3～7 cm で、カエデ属の中では最小の部類である。掌状に深く 5～7 裂し、和名イロハモミジは、裂片を「いろはにほへと」と数えたことに由来する。10～12 月の秋季には黄褐色から橙色、紅色に紅葉し、落葉する。花期は 4～5 月で、新枝の先に暗紅色の小さな花を複総状につける。雌雄異花同株の風媒花で、雄花と両性花をつけ、がく片・花弁とも 5 個、雄しべ 8 個、果実は長さ 1 cm ほどの翼をもつ翼果である。
- 8 規模・沿革 旧中央線玉野第四隧道(4号トンネル)東坑門に近接して4本の大木が密集し、煉瓦積みによる明治時代の鉄道トンネルと一体的な景観を成している。4本のイロハモミジは、樹高17.0m・幹周2.29m(1号木)、樹高17.5m・幹周1.59m(2号木)、樹高16.3m・幹周1.84m(3号木)、樹高13.2m・幹周1.29m(4号木)と、いずれも幹周1mを超える大木であり、1号木の幹周2.29mは市内最大である。

明治33(1900)年の名古屋から多治見間の開通後に芽生え、今日の大木へと成長するまで中央線と共に歴史を歩んだと考えられ、推定樹齢約120年の市内最古のイロハモミジである。

樹枝は、中央線工事に際して造成された軌道敷の縁辺から日照の良い庄内川の溪谷に向かって大きく張り出すように伸び、曲線を基調とした見事な枝ぶりを成している。加えて4本の大木が一体となって量感豊かな樹冠を形成し、見る方向や角度によって樹形が大きく変化する点も本樹の特徴である。

9 指定に相当する理由 市内最大・最古のイロハモミジであり、名木に相応しい樹形・枝ぶりを有し、自然と近代化産業遺産(玉野第四隧道)が調和した優れた景観を形成しているほか、春日井市の発展に重要な役割を果たした中央線と関係した歴史的背景を有している。

春日井市にとって重要な樹木であり、天然記念物に指定し、保護・保存していくことが必要と考えられる。

### イロハモミジ 写真



イロハモミジ

1～4号木 配置模式図

